

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.11)

ウーマンズパビリオン in collaboration with Cartier

【設計】永山祐子建築設計



図-1 正面外観写真

©表恒匡



図-2 アッパーガーデン 内観写真

©表恒匡

女性活躍推進をテーマとした Women's Pavilion in collaboration with Cartier。弊社が設計したドバイ万博の日本館のファサードをリユースするにあたり、植栽とファサードの関係性やその見え方が再構成された。

西側（正面）のアプローチから入ってすぐのガーデンや2Fの中庭として計画したアッパーガーデンはファサードと植栽が共存した空間となっている。

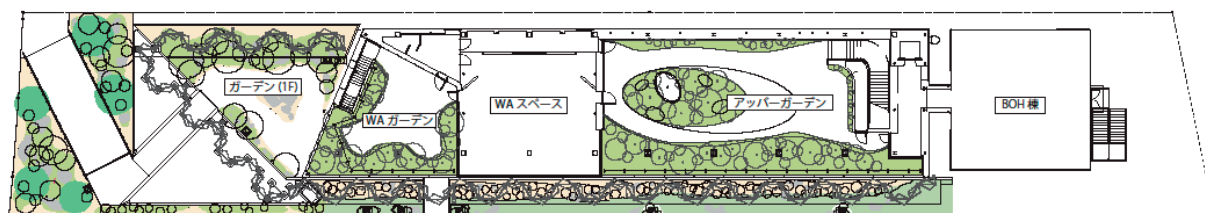


図-3 2F平面図

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.11)



図-4 1Fプロムナードギャラリー(外廊下) 内観写真 ©表恒匡

1Fの半屋外となっている通路に面してファサードが長く続いている。建築確認においてはこのファサードの取り扱いについて細かく協議し、不規則に取りつくフッ素樹脂膜の配置についても検討することで、リユースを成立している。

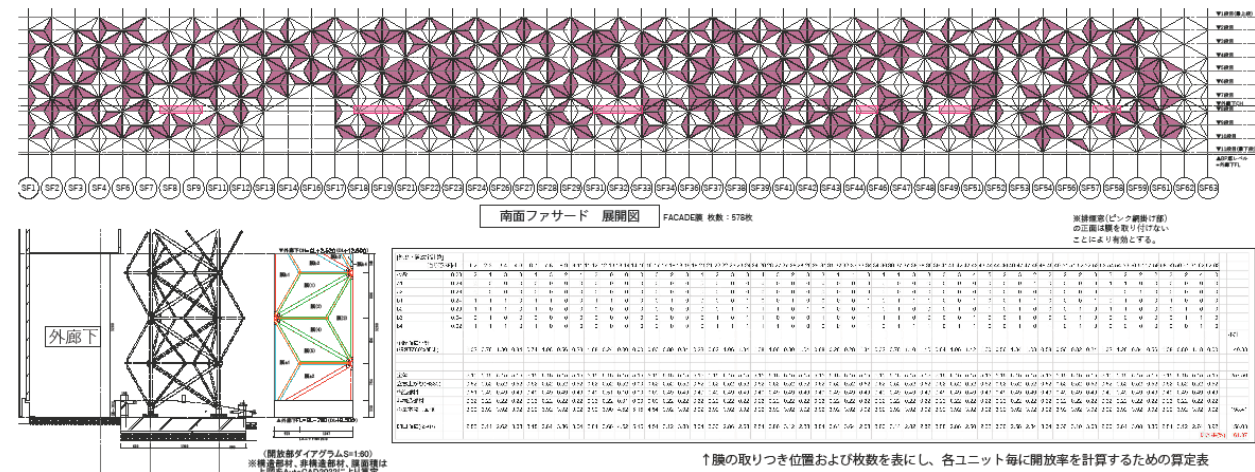


図-5 南面ファサード開放性証明図

【パビリオンの概要】

Women's Pavilionは、女性活躍推進をテーマとした館である。前回のドバイ万博から始まり、今回の大阪万博へテーマが継承されて出展が決まったパビリオンである。

テーマの継承と同時に、建築においてもドバイ万博日本館で使用したファサード部材をリユースすることで、ドバイ万博と大阪万博を繋ぐ建築を体現している。ボールジョイントシステムで構成されたファサード部材を丁寧に解体し、ドバイから大阪まで運び、組み換え、改めて構造計算を行うことで今回の敷地形状や建築の条件に合わせた新しいファサードとして再利用している。

細長い敷地形状に合わせながら、地上や2Fに中庭を作り、通路空間や内部空間とファサードの関係性が再構成されることで新たな空間性を獲得した。

【設計概要】

この建築の特徴であるファサード部材のリユースには建築確認においても工夫が必要だった。ドバイ万博日本館においてドイツで製作されたボールジョイントシステムのファサード部材の部材強度をEU規格からJIS規格に読み替え、施工精度を確保するための固定方法を確立するためには、ファサードを工作物ではなく本体建物の一部として考える必要があった。それによってファサードに覆われた部分の床面積の換算方法等について確認審査課と細かく協議しながら進めた。また、半屋外の廊下を開放廊下として扱うため、ファサードにランダムに配置されたフッ素樹脂膜の位置まで詳細に確認を受け、開放率の証明を行った。結果として建築部材のリユースを成立させるために工夫を凝らした建築となった。